

平成27年度 西都銀上学園 自己評価書(B)
 己評価:4段階評価】4(十分に満足できる) 3(ほぼ満足できる) 2(やや物足りない) 1(改善を要する)

評価項目	評価の観点	方策・指導の手立て	自己評価		反省・対策	
			指標別	総合		
基礎・「やる気」の実定着と児童生徒の向上	個に応じた指導	児童生徒の状況を把握し、一人一人に応じた学習指導の工夫改善を図る。	・個に応じた指導の工夫・改善 ・「めあて」「目標」と「まとめ」のある学習指導過程 ・シロミックスタイム等の個に応じた指導の充実	3.6	3.2	・個に応じた指導は可能な限り工夫を行ったが、学力向上に向けた学習指導の改善が必要である。 ・児童生徒の状況を把握した「めあて」「目標」と「まとめ」のある学習指導過程を意識して取り組むことができ、充実した授業を展開することができた。 ・一人ひとりの児童生徒の実態に応じたシロミックスタイムを行うことができた。今後も継続的に続け、学力向上に励んでいきたい。
	授業力の向上	中学校教諭による乗り入れ授業を行い、学力向上を目指すとともに、小中相互の授業参観を積極的に実施し、授業の工夫・改善に努める。	・乗り入れ授業による個別指導の充実 ・授業研究会による研修の充実	3.4		・多くの教科で乗り入れ授業により小学校の複式授業を解消することができ、個別指導に活かすことができた。また、小中の学習内容の系統性を活かした授業を展開することができた。 ・一人一研究授業および事後研修を実施することができ、授業展開の共通理解や発達段階に応じた学習指導、個に応じた指導など工夫・改善することができた。
	家庭学習の充実	家庭との連携により、家庭学習の習慣化に努め、基礎学力の定着を図る。	・基礎学力の定着を図る家庭学習の指導 ・個に応じた家庭学習の指導	3.2		・発達段階に応じた9年間の「家庭学習の手引き」の作成を行った。また、学習指導集会を小中別に行い、家庭での学習時間や自宅学習ノートの内容など効果的な学習指導を行うことができた。今後保護者への啓発を行う必要がある。 ・自宅学習ノートに「めあて」「振り返り」「先生からのアドバイス」の欄を設け、効果的な家庭学習を指導した。
	学力向上	NRT、CRT、実力テスト等の諸検査の分析を生かし学力向上のための手立ての充実を図る。	・諸学力検査の結果による児童生徒の実態	3.1		・系統的なNRTテスト分析を行い、児童生徒の実態把握を行った。また、各種テストの分析をもとに、授業や朝のプリント学習、プラス1等で学力向上に向けた取組を行うことができた。
	学習意欲の向上	児童生徒の向上心を高め学習に対する意欲を喚起する。	・学習意欲の喚起 ・目標をもち向上心をもって学習に取り組む態度の育成	2.8		・ICT機器を活かした授業を各教科で実施することができ、児童生徒の興味関心を喚起するような授業を行うことができた。しかし、一人ひとりの意欲に差があったため、個に応じた指導が必要である。
基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	基本的な生活習慣の指導	あいさつや言葉遣いの指導を中心に、基本的な生活習慣の確立に努める。	・あたりまえのこと三か条を中心とした指導	3.2	3.1	・あたりまえのこと3か条を中心に常時指導は行ってきたが、あいさつは、時と場に応じて自分からするところまではまだできていない。また、整理整頓も自分で気づいて行うところまでは至っていない。対策としては、今後も根気強く指導を継続していく。
	道徳教育 人権教育	道徳の時間や人権学習の内容充実を図り、思いやりの心や温かい人間関係の醸成を図る。	・道徳の年間計画の見直し ・道徳の授業の工夫改善と体験活動の充実 ・人権教育の全体計画の作成	3.5		・道徳の年間計画を作成することができた。しかし、「計画どおりに実施できたか」「効果的な計画であったか」など実態把握・分析する必要があり、今後のアンケート等の実施が必要である。 ・人権教育の全体計画を作成することができた。また、2学期に小中学校ともに、人権教育に関する道徳・学活の授業を実施することができた。
	体験学習	地域の伝統文化や自然、福祉に関わる体験的学習を推進し、豊かな心の育成を図る。	・伝統文化を活かした体験学習の充実 ・豊かな自然を活かした校外活動の実施 ・福祉に関する体験学習の充実	3.8		・伝統文化教室や銀鏡神楽鑑賞など地域の方の協力を頂き、充実した体験学習を行うことができた。 ・環境教室、農業体験学習、ゆずちぎり体験など豊かな自然を活かした活動を行うことができた。 ・憩いの家訪問や福祉体験学習(車椅子・アイマスク体験)を実施し、福祉の大切さを学ぶことができた。
	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の定着を図る。	・児童生徒の実態	2.5		・規則正しい生活習慣や、家での手伝いなどは習慣化している。しかし、長期休業中に崩れる傾向が見られる。対策としては、長期休業前の参観日の学級懇談等で、啓発していく。
	思いやりの心	思いやりの心や温かい人間関係の醸成を図る。	・児童生徒の実態	2.4		・運動会や文化祭等の学校行事を通して他を思いやる心や協力すること大切さを学ぶことができたが、まだまだ指導を要する部分がある。
力(育)の向上・安全教育の推進と体力の育成	食育の充実	食に関する指導を充実させ、「早寝・早起き・朝ご飯」の推進や「みやざき弁当の日」の取組を行う。	・食育の充実	2.9	3.2	・「地産地消」を意識した調理実習や授業を行った。「みやざき弁当の日」は、3月のお別れ遠足に実施予定。中学校では、冬休みの課題として出題した。それを踏まえて調理実習を予定している。
	健康安全教育	心身の健康維持に関する指導に努める。	・児童生徒の実態把握や教育相談の充実	3.2		・年間5回の教育相談は計画通りに実施でき、児童生徒にとっても貴重な相談時間になっている。
		生命尊重を基盤とした健康・安全教育を推進する。	・健康教育・安全教育の推進	3.4		・各種避難訓練や常時指導など、生徒指導部を中心に、的確に行うことができた。
	体力向上		・体力テストの結果を生かし、個に応じた指導の充実	3.5		・個に応じた指導は可能な限り工夫を行った。今後も継続して行っていく。
	部活動・行事等	体育指導の充実と運動の日常化を通して、児童生徒一人一人の体力向上に努める。	・部活動、行事等に根気強く取り組む態度の育成	3.3		・部活動の取組に関しては個人差がある。個別の指導を継続していく。 ・各行事に対しては全員が意欲的に取り組む姿が見られた。今後も一人一人が存在感を感じられるような支援を継続していく。
体力に関する実態		・児童生徒の実態の把握	3.1	・各自、前年度と比較しても体力はついてきている。今後も継続指導をしていく。		
教庭育・地域の社会と教育の連携による	小中一貫教育	学習指導面や生徒指導面における小中連携の在り方等について共通理解、共同実践しながら、小中相互の連携や協力体制の確立を図る。	・学習指導面での小中連携の充実 ・生徒指導面での小中連携の充実	3.6	3.5	・乗り入れ授業や学校行事の連携、校内研究など他校にはない先進的な取組みを全職員の協力のもと実践できている。 ・小中9年間を見通した学習指導をさらに工夫・改善し、一人ひとりの実態に応じた学習指導を行う必要がある。 ・人権・生徒指導研修で小中間の情報交換を行い、共通理解共通実践をしてきた。今後も情報交換を密にし、連携を図っていく。
	情報発信(説明責任)	学校の教育方針や教育的課題を積極的に説明するとともに、学校便りやホームページ等を通じた情報提供に努める。	・教育方針や課題についての積極的な説明 ・学校便りやHPによる情報提供の充実	3.5 3.5		参観日、学校だより等を通して今後も積極的に発信していく。 毎日更新しているが、実親さん達に様子が伝わるように今後も工夫していく。
	関係機関との連携・協力	山村留学実行委員会、保護者(実親、里親)との連携・協力体制の確立を図る。	・関係機関との連携・協力体制の確立	3.5		今の状況を維持継続させながら、積極的に地域と交流し更なる協力態勢を築いていく。